

回覧

第2自治会防災通信

第3号のテーマは **"本当に横浜に巨大地震が来るの?"** です。

地震がいつ、どこで起こるか現在の予測技術では正確に予測するのは困難です。

ただ、過去の大地震の記録をたどり、その発生の周期性と地殻変動の観測から地震発生の予測がなされています。関東地域に大きな地震をもたらすものとして

1) 首都直下型地震 2) 南海トラフ地震 が挙げられています。

1) 首都直下型地震 (マグニチュード7以上の地震の発生確率：30年以内に70%)

首都直下型地震の代表例は関東大震災で、下記のように横浜市近隣の3か所で発生した地震でした。

1923年9月1日	発生場所	マグニチュード	最大震度
11時58分	神奈川県西部	M7.9	7
12時01分	東京湾北部	M7.2	6弱
12時03分	神奈川と山梨の県境	M7.2	7

関東大震災は東京の被害が目立ちますが、横浜も甚大な被害を受けました。首都直下型地震は名前から東京の直下で起こる地震と思われがちですが、首都圏の直下という意味で首都圏直下型地震と呼ぶのが正しいのかもしれませんが、今度も横浜は大きな被害を受ける可能性があります。

2) 南海トラフ地震 (2030年-2040年にはほぼ間違いなく起こると予想の専門家も)



マグニチュード8~9, 横浜市は震度6弱と予想
過去発生間隔：88.2年

最近の南海トラフ地震

+ 1944年昭和東南海地震 (M7.9)

+ 1946年昭和南海地震 (M8.0)

1946年の昭和南海地震は予想より規模が小さかったため、現在大きなエネルギーが蓄積されつつあると考えられています。

次回の防災通信からは地震に対する備えを掲載予定で、第4号は"横浜市、泉区役所の

備え (公助)"の予定です。ぜひ皆さんの備えの参考にしてください。

「第2自治会防災通信」に対する質問やコメントがありましたら、
"第2自治会防災委員会" までご連絡ください。

Fax : (045) 811-6769

メールアドレス : nishigaoka.dai2jichikai@outlook.jp

